

鹿児島県における令和3年産原料用さつまいもの生産状況などについて

鹿児島県さつまいも・でん粉対策協議会

【要約】

鹿児島県における令和3年産さつまいも全体の生産量は19万600トン（前年産比89%）で、このうち、でん粉原料用さつまいもの生産量は7万3600トンであった（同102%）。

はじめに

鹿児島県におけるさつまいもは、本県普通畑の約2割に作付けされており、夏場の土地利用型作物として、輪作体系や防災営農の面から重要な作物として位置付けられている。また、でん粉や焼酎などの原料用をはじめ、青果や菓子（加工）用として幅広く利用されており、地域経済を支える面からも重要な作物である。

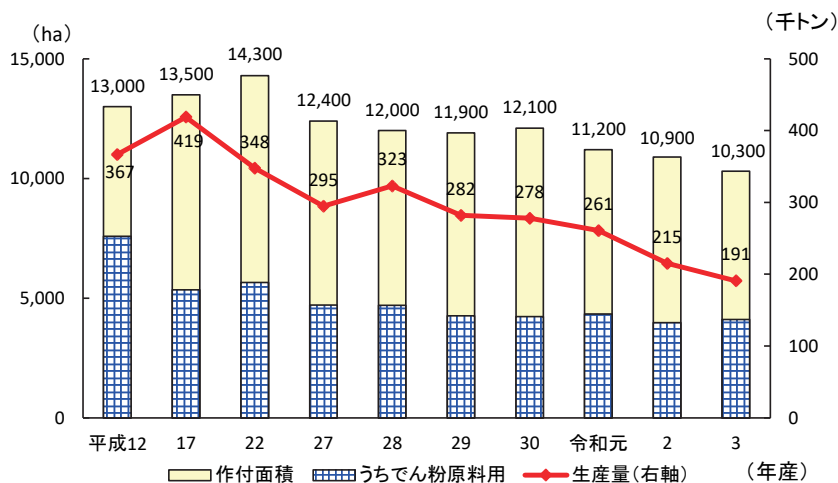
本稿では、令和3年産原料用さつまいもの生産状況やでん粉工場の原料確保、当協議会における生産振興に向けた取り組みについて報告する。

1. 令和3年産さつまいもの生産状況

（1）作付面積

令和3年産の作付面積は、1万300ヘクタール（前年産比94%）（図1）であり、全国の作付面積3万2400ヘクタールのうち約3割を占め、全国第1位となっている。このうちでん粉原料用は、県全体の約4割を占める4110ヘクタール（同103%）で栽培されている。

図1 鹿児島県におけるさつまいもの作付面積、生産量の推移



資料：農林水産統計

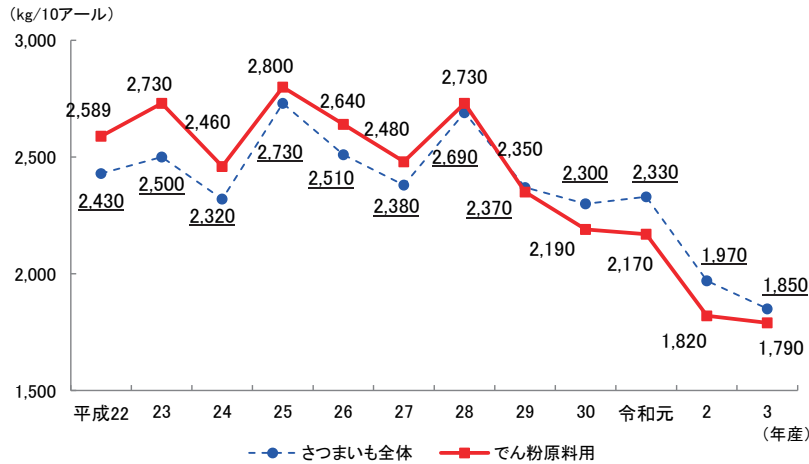
(2) 生産量

令和3年産さつまいもの生産量は、農業者の高齢化に伴う労働力不足などの影響で作付面積が昨年より600ヘクタール減少したことに加え、8月の長雨による日照不足やサツマイモ^{もどぐされ}基腐病（以下「基腐病」という）の発生拡大などの影響もあり、19万600トン（前年産比89%）（図1）となり、10アール当たりの収量（単収）は、1850キログラム（同94%）（図2）であった。

(3) 用途別生産量

鹿児島県におけるさつまいもの用途は、でん粉原料用と焼酎原料用が全体の約9割を占めており、令和3年産におけるでん粉原料用の生産量は、全体の39%となる7万3600トン、焼酎原料用は、全体の48%の9万1115トンとなっている（表）。

図2 鹿児島県におけるさつまいもの10アール当たり収量の推移



資料：農林水産統計

表 鹿児島県におけるさつまいもの用途別作付面積および生産量

(単位：ヘクタール、トン)

区分 年産	でん粉原料用		焼酎原料用		その他		合計	
	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量
R2	3,980	72,400	4,759	98,389	2,161	43,911	10,900	214,700
R3	4,110	73,600	4,380	91,115	1,810	25,885	10,300	190,600
(構成比)	(40%)	(39%)	(43%)	(48%)	(18%)	(14%)	(100%)	(100%)
R3/R2	103%	102%	92%	93%	84%	59%	94%	89%

資料：農林水産統計、鹿児島県調べ

注：ラウンドの関係により、構成比の合計が100%にならないものもある。

2. でん粉工場の原料確保

鹿児島県内のさつまいもでん粉工場は、主産地である南薩、大隅、種子島地域を中心に、農協系2工場、民間11工場の計13工場が操業しており、令和3年

産のでん粉原料用さつまいもは、前年に比べ生産量はやや増加したものの、計画数量の確保には至っていない状況である。

また、平成30年産に発生が確認された基腐病の影響もあり、安定的な原料確保が課題となっている。

3. 生産振興に向けた取り組み

(1) 用途別原料確保対策

本協議会では、でん粉工場や焼酎メーカーに対し翌年産の需要量調査を行い、地域別に取りまとめ、毎年3月に「原料用さつまいもの需要希望量等について」を地域段階において情報共有するほか、健全な種いも生産のポイントに関するチラシを作成し、生産者に周知するなど、計画的な生産を推進している。

また、でん粉原料用として出荷を予定している生産者に対しては、独立行政法人農畜産業振興機構鹿児島事務所の協力のもと、国の支援制度（品目別経営安定対策）（図3）などを周知し、令和5年産に向けても同様の取り組みを行うこととしている。

(2) 基腐病対策

沖縄県に次いで、平成30年12月に本県で基腐病が確認されて以降、令和4年10月27日現在、28都道府県で発生しており、全国的に広がりを見せている。

鹿児島県では、基腐病対策を着実に推進していくため、令和4年1月に「鹿児島県サツマイモ基腐病対策プロジェクトチーム」を立ち上げ、「鹿児島県サツマイモ基腐病対策アクションプログラム」を策定し、ほ場に基腐病菌を「持ち込まない」「増やさない」「残さない」対策を、関係機関・団体と一体となって総合的に推進している（図4）。

本協議会でも、鹿児島県や関係機関・団体と連携して、令和4年8月に生産者などを対象に、育苗のポイントや基腐病に抵抗性を有する新品種「みちしずく」などについて研修会を開催するなど、健全苗と健全なほ場の確保に向けた取り組みを推進している。

図3 品目別経営安定対策のチラシ

令和4年産でん粉原料用さつまいもの生産・出荷を予定される皆様へ

さつまいも病害の発生防止のため、基本技術の徹底に努めよう!!

国の支援制度(品目別経営安定対策)の交付金を受けるには、**一定の要件を満たす生産者**であり、**でん粉工場(注1)と事前の売渡契約を結んだ上で毎年7月末までに(独)農畜産業振興機構(ALIC)に申請**の手続きが必要です。(注)JAのでん粉工場に出荷する場合は、JAと売渡契約を結びます。

① 生産者に求められる要件

区分	交付金の対象者要件
B-1	認定農業者、特定農業団体 又はこれと同様な組織 (面積要件なし)
B-2	收穫面積(注1)の合計が、0.5ha以上の生産者(法人含む)、3.5ha以上の協議組織
B-3	基幹作業(注2)面積の合計が、3.5ha以上の共同利用組織(注3)の構成員
B-4	B-1、B-2の生産者、又は基幹作業面積の合計が3.5ha以上の委託組織やサービス事業体に基幹作業を委託している者

(注1) 收穫面積は、作付面積(收穫部分に限る)と收穫作業の委託面積の合計から、收穫作業の委託面積を引いた面積
(注2) 基幹作業は、育苗、耕起・整地、畝立て・マルチ、播付け、防除、收穫(掘り起こし・つる切り)
(注3) B-3の共同利用組織は、基幹作業にかかる管理者(オペレーター)を定めている組織
(注4) B-3、B-4の基幹作業を共同で行う場合や委託する場合は、機械の共同利用や委託に供した実面積(最大の基幹作業の面積)の割合が、收穫面積の2分の1以上

② 売渡契約の締結

でん粉工場と売渡契約を結んでいないと制度に加入できず、交付金の対象になりません。
※でん粉工場やJAが、申請の代理人となっていますので、詳しくはお近くのでん粉工場やJAにお問い合わせください。
契約に基づき、計画的に出荷を行きましょう!

③ 申し込みや出荷の際の注意点

(申し込み時の注意点)
・ 売渡契約書及び要件審査申請書には、**でん粉原料用さつまいもとして出荷を予定されているすべての品種名を正確にご記入**ください。
※品種によっては、交付金率値が異なる場合があります。

(出荷の際の注意点)
・ あらかじめ**申し込みをした品種であることを確認**の上、出荷をしてください。
・ **申し込み時と異なる品種を出荷される際には、出荷の前にでん粉工場やJAにご相談**ください。

鹿児島県さつまいも・でん粉対策協議会 令和4年3月作成

④ 生産者の承継

(独)農畜産業振興機構への要件審査申請後に、生産者の方がなくなったり、経営から引退されたらする場合に、他の方に経営の全部又は一部を承継する際には手続きが必要です。
このようなケースが発生した場合は、速やかに**代理人(でん粉工場やJA)**にご連絡ください。集荷業者経由で申請された方は、集荷業者に、代理人に経営の承継を伝えるよう依頼してください。

なお、機構では、毎年9～10月頃に生産者の皆様に「対象でん粉原料用いも生産者要件審査結果通知書(右イメージ参照)」の通知はがきを送付していますので、内容に問題ないか、必ずご確認ください。

通知はがきイメージ

【参考】令和4年産でん粉原料用さつまいもの生産者手取り基準価格

項目	金額
39,606円/原料トン (1,485円/俵)	交付金(注)
28,980円/原料トン (1,087円/俵)	さつまいもの取引価格(注)

(注)上記の交付金、さつまいもの取引価格は、さつまいもの品種によって異なる場合があります。

【トピック】サツマイモ基腐病への薬剤の効果的な使用方法!

薬剤の散布例

散布前	1回目	2回目	3回目
播付前 ベンレート水和剤による苗消毒	播付から35日頃 アミスター 20フロアブル 100L/10a	1回目から14日後 アミスター 20フロアブル 200L/10a	2回目から14日後 アミスター 20フロアブル 200～300L/10a

初期防除が重要

初期防除が大切だよ!

発病株の除去で、後の発生程度に差が出るから、速やかに抜き取る

農薬の名称	対象病害	希釈倍率	使用量	使用回数
アミスター 20フロアブル	基腐病	2,000倍	100～300L/10a	3回以内
ジーファイン水和剤(銅剤)	基腐病	1,000倍	200～300L/10a	—
Zボルドー(銅剤)	基腐病 斑点病	500倍	100～300L/10a	—

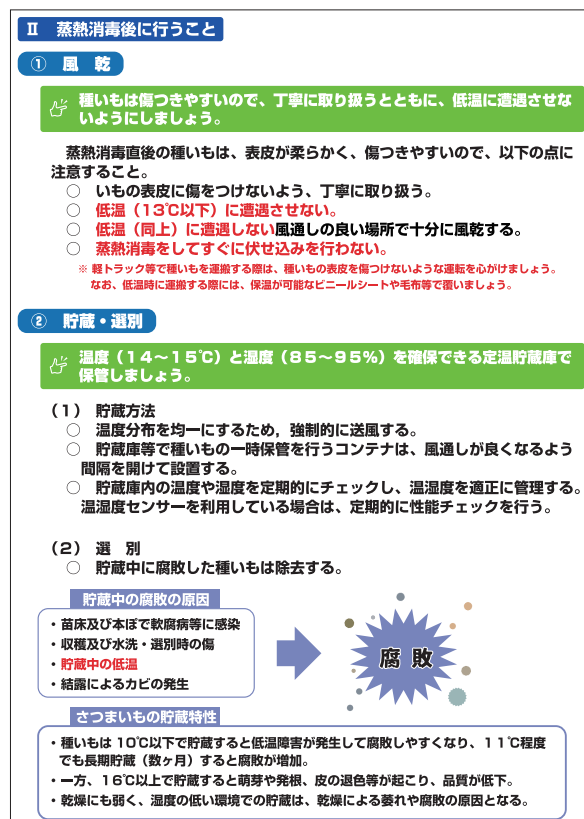
<アミスター 20フロアブルの効果的な使用方法>
① 散布時に発病株がある場合には、必ず株ごと除去してから散布する。
② 多発してから防除は効果が認められないため、発生初期からの防除を徹底する。
③ 地際茎に薬剤が十分かかるように散布する。
④ 本剤の適用は避け、上記銅剤との輪番で散布する。

資料：鹿児島県さつまいも・でん粉対策協議会

図4 蒸熱消毒前後における種いもの取扱事項（抜粋）（令和4年9月発行）



資料：鹿児島県農政部



おわりに

鹿児島県のさつまいもの生産振興において、基腐病のまん延防止は喫緊の課題であり、基腐病に打ち克つためには、ほ場に基腐病菌を「持ち込まない」「増やさない」「残さない」対策を総合的に推進する必要がある。

これらの基本的な対策を生産者などが確実に実践することで、基腐病の発生を軽減させ、さつまいもの生産回復につながるよう、今後とも関係機関・団体と一体となり啓発活動や研修会活動、情報共有を図っていきたいと考えている。